

6年 家庭科学習指導案

授業者 村松 育実

1. 題材名 「ピカピカ掃除で快適に」(住生活)

2. 題材の目標

○住まいの清掃の必要性、汚れの種類や場所に応じた清掃の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。 [知識及び技能]

○身の回りのよごれや清掃の仕方について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し考えたことを表現するなどして課題を解決する。 [思考力、判断力、表現力等]

○家族の一員として、生活をよりよくしようと、清掃の仕方についての課題を解決するために主体的に取り組んだり、取り組みを振り返って改善したりして、生活を工夫し実践しようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、自分が当たり前だと思っていることについて立ち止まる機会があると、その事象について素直に見つめ直すことができる。算数科「分数と分数の割り算」の学習では、課題として出された問題文を即座に立式し、塾などで得た知識をもとに答えを導き出す子どもが多かった。しかし、その後「なぜ割る数の分母と分子を逆にして掛けるのか」と問われた時「解けたからいい」と思考を止めることなく「その操作はどのような意味をもつのか」というところまで考えを広げていた。家庭科「生活時間をマネジメント」において、自分の普段の生活を書き出した際には「ゲームの時間が多すぎて体によくない気がするから、どうにかしたいな」と、すぐに自分の当たり前となっている生活を見つめ直し、課題を設定していた。そこから「ゲームの時間を減らして体を動かす時間を作ると健康によさそうだ」とよりよくする方法を考えて実践する姿があった。夏休み前に行った家庭科「笑顔あふれる献立をつくろう」では、普段当たり前になっている「食事」の意味や意義を改めて考えた。そこで「食事とは幸せをつくるもの」と気づき、自分の「幸せ」をつくるための献立を立てる活動へと向かっていった。自分の食や健康について「食べるのが早くてあんまり噛めてないのってよくないよね」「自分は野菜が苦手だけど、食べないと病気になりやすくなってしまう」と見つめ直し、自分の課題をもった。それを踏まえて行った献立の立案では、情報の収集や共有を積極的に行い、自分の食や生活を、よりよくしようとする姿が多く見られた。このように、今自分がもつ当たり前を見つめ直し、より深く理解しようとしたり、よりよくしようとしたりできる子どもが多い。

教科の学習以外でも、自分たちで普段行っている「掃除の時間」について、学級で話し合いを設けて改善しようとする姿があった。話し合い冒頭は「担当場所を替える期間」について議論をしていたが、途中から「まず、自分たちは今掃除に向かえているのか」という論点に変わっていった。そこから自分や自分と同じ担当場所のメンバーの掃除への向かい方に目を向け、それぞれが「自分は面倒くさくてあまり向かえていないかもしれない」「自分は向かえているつもりだけど、まだできることはあると思う」と、自分たちの掃除について見つめ直した。そして「担当場所やその期間を考える前に、今の掃除にちゃんと向き合おう」と学級全体で決め、それぞれの担当場所ごとに「どうしたら時間内に掃除を終える(きれいにする)ことができるのか」を考えて実践した。このように、本学級の子どもはこれまで日常となっていた事象も、改めて見つめ直す機会を得ることでよりその理解や価値を自分たちで深めることができる。だからこそ、試行錯誤することを通してそれらをより自分のものとし、これから的生活へといかしていってほしいと考えた。

今回は学級として目を向いている清掃を家庭科の授業で扱う。本題材を行う時期には、相棒である1年生と一緒に清掃を行っており、清掃に対してより関心が高まっているだろう。学校で「掃除の時間」として設定されている清掃は、快適で健康に過ごすために必要不可欠なことである。そんな清掃に対して子どもがもつ印象は様々であり「きれいになることが嬉しい」や「気持ちがよくなる」と考える子ど

そもそも「面倒くさい」「汚いからやりたくない」と考える子どももいる。さらに本校では「掃除の時間」が昼休みの前に時間が設けられているため「昼休みの遊びにどれだけ早く行くか」に意識が向き、清掃を疎かにしてしまう場面も見られる。しかし、普段の「掃除の時間」に前向きではない子どもでも、普段はやらない埃がたまつた場所の清掃や長期休業前の清掃には、意気揚々と向かうことがある。これは、成果が見えやすくなったり実感をもてたことや、十分な時間設定があることが要因として考えられる。

このような実態も踏まえ、本題材では自分たちの身の回りのよごれの性質(なぜよごれるか・どんなよごれか)を調べ、普段清掃している場所の清掃の必要性やよごれに合った清掃の仕方を考え、実践を行う。さらに、よごれを調べる際にはブラックライトも活用し、見えないよごれにまで視点を広げて清掃について考えていく。ブラックライトは紫外線の光を発するライトで、この光は埃や菌などの蛍光物質をもつものに反応し、普段は見えないよごれを可視化してくれる。一見きれいな場所でも多くの細かい埃や菌が付着しており、それに応じて清掃の仕方を工夫することは健康で快適な生活をする上で欠かせない。ブラックライトで可視化することで、そのようなよごれが身の回りに多くあることを認識し、清掃の必要感がより高まるだろう。そしてその必要感が、よりよい清掃の仕方(使用する道具や手順等)の追究をより意欲的なものにすると考えた。加えて、きれいになったという達成感や満足感を得やすくなり、今後へいかそうとする姿にもつながるのではないかだろうか。

家電が発達し、家庭での掃除様式が学校と乖離している現代社会ではあるが「清掃をする」という行為の意義や、場所やよごれに合わせた方法を用いるということは変わらない。学校の清掃の意義として「公共心、責任感、勤労観などの育成」が挙げられるが、それは家庭にも言えることだ。自分のために、家族のために、清潔な環境を保つことは快適に過ごすために大切なことである。今回、まずは学校で清掃の意義や方法を仲間と共に追究し、それらを普段の生活にいかしていくことでこれから先よりよい生活を営んでいってほしい。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』

本題材の導入で、子どもはまず清掃の目的や意義を考える。6年生の子どもは5年生で整理整頓について学んでいるため、それと関連づけながら、清掃することによって気持ちよく過ごせることや安全な生活につながることなどを共有するだろう。加えて、これまで見聞きし得た知識として、清掃によって埃や塵などを除去することが健康にも寄与するという旨の発言が出てくることも予想される。また、実際に目には見えない埃の動きの映像を見ることで、よごれの健康への影響と清掃の意義をより感じ「きれいな環境で過ごしたい」という思いをもつだろう。そんな子どもに「自分たちの清掃を見つめ直して、きれいな環境をつくろう」と伝える。すると子どもは、まず自分たちの普段の「掃除の時間」を想起するはずだ。「いつも隅まで丁寧にやっているけど、見えないよごれまでは考えていなかったな」「遊んでしまって掃除に向かえていない」など普段の清掃について振り返るだろう。

普段の清掃について振り返った子どもは「掃除の時間」の後に自学級が担当している場所の様子を観察するため校内を回る。子どもは自分の担当場所を改めて見つめるとともに、仲間が行った清掃を知り、自分たちの清掃を見つめ直すだろう。また、観察の際にはブラックライトを用いることで、自分の清掃場所にある見えないよごれを知る。その中で「まだ隅にごみが残っていたな」「時間内に終わらなかつたんだよね」「見た目はきれいだけど、ライトで照らすと取りきれていないよごれがあった」と自分の清掃を振り返り、そこから「どう掃除をしたらごみが残らないんだろう」「時間内にきれいにするにはどうしたらいいんだろう」「見えないよごれまで取りきる方法はないのか」などの課題をもつだろう。そして、その解決方法について同じ担当場所の仲間に考えていく。子どもはその場所の特性から清掃を行う向きや動線を考えたり、清掃の際に集めたごみやライトで見つけたよごれをもとに、道具とよごれそれぞれの特性から解決方法を考えたりすることもあるだろう。これまで、何気なく使っていた道具の正しい使い方を改めて調べることもあるかもしれない。

そして、考えた解決方法を用いて実際に清掃を行う。考えた方法を実際に行うことで子どもは「床の

目の向きで掃いてみたらごみがほとんど取りきれたよ。でも、まだ取りきれていないのはなんでだろう」「時間を短くするために分担したけど逆にごみが残ってしまった」「ほうきと乾拭きだけだと、見えないよごれは取りきれなかった」などと、自分たちが考えた方法のよさや難しさに気づき、それを踏まえて「次はこうしてみよう」と考えるだろう。また、ここでもお互いに清掃後の様子を見合い、自分の実践の振り返りとともに気づいたことや考えたことを学級で共有する。すると「ほうきを変えてみることで、きれいにしつつ時短になるかもしれない」「自分たちは意識していなかったけど、高い所を先にきれいにすることで、埃が落ちることを減らせるかも」などと、自分たちの場所で活用できそうな方法を新たに得たり考えたりするだろう。また、課題を達成したと考えていた子どもも、他の掃除場所で行われた方法や課題を知ることで、自分たちの清掃を再度見つめ直し「よりきれいにする」という視点で新たな課題をもつだろう。その後、この振り返りと共有を踏まえて、解決しきれなかった課題や新たに生じた課題を解決するための方法を考え、再度実践を行う。子どもは、実際にに行ったり友達の実践を聞いたりしたことであげた「場所」「よごれ」「道具」の特性を踏まえ、インターネットや家人からの情報も考慮しながら清掃の計画を立て、実践するだろう。2度目の実践は、よりその場所やよごれに応じた清掃となり「自分たちの考えた方法できれいになった」という実感を得ることにつながるだろう。

最終時には、レベルアップさせた清掃の仕方をまとめて実践を振り返る。その中で子どもは「場所に合わせて道具を正しく使うことで、効率よくきれいにできるんだ」「掃除する順番が大切なことを1年生に伝えてあげよう」と身の回りのよごれや道具について再確認したり、気づいたことを伝えようとしましたくなったりするだろう。また「水の跡を残さない雑巾の絞り方は家でも使えそうだな」「家の掃除機もフローリングの向きに合わせてかけたらよさそう」と家庭での清掃に目を向けることもあるはずだ。さらに「つまらないって決めつけて適当にやっていた掃除も、こだわってみると案外面白いかもしれない」と清掃に対する価値観を更新することもあるかもしれない。何事も素直に見つめ直せる子どもだからこそ、普段何気なくやっていて面倒だと感じることのある清掃でも、じっくり考える機会を得ることで、自分にとっての価値を見出そうとするのではないだろうか。身の回りのよごれを知り、それに合わせた清掃の仕方を学級全体や個人で試行錯誤をくり返して追究し、体験的に理解した経験が、子どもの今後の生活をよりよいものにすることを期待している。

5. 題材構想（全7時間扱い／本時は第⑤時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ 最終時における子どもの表れ

① <清掃ってなんのためにあるんだろう>

- ・みんなが使う場所だからきれいにしなきゃいけないんだよ
- ・気持ちよく過ごすためだと思う
- ・5年でやった整理整頓と同じように、安全も関係ありそうだよね
- ・汚いと病気になりやすくなるらしいから、健康のためでもあるよ
- ・映像を見て、埃ってこんなに空気中にあるんだって驚いたな
- ・空気中の埃が病気につながるなら、舞う前に埃をとる掃除は大切だよね

<自分たちの清掃はどうだろう>

- ・毎回隅までやっているけど見えないよごれまでは考えていなかったな
- ・一応できているつもりだけど、まだできことがあるかもしれない
- ・中途半端な状態で終わってしまうこともあるな

②③ <実際の清掃結果を確認してみよう>

- ・まだごみが残っていた。それじゃ終わったことにはならないよね。どう掃除をしたらごみが残らないんだろう
- ・時間内に終わらなくて、中途半端になってしまった。時間内にきれいにするにはどうしたらいいんだろう
- ・見た目はきれいだけど、ブラックライトで照らすと取りきれていないよごれがあった。それを取りきる方法を知りたいな

○教師の働きかけ

○自分が清掃をどう捉えているかを再認識できるように、清掃の目的や意義を広く問う。

○目には見えない埃の動きを認識しやすくするために、特殊ライトを使った映像資料を見せる。

○清掃の目的や意義を踏まえて、できていることに加え、レベルアップにも意識を向けられるように声をかける。

○お互いの清掃のよさや改善点に気づくとともに自分の清掃も改めて見つめ直せるように、友達が行っている場所も見て回る。

<自分たちの清掃をレベルアップさせよう(計画)>

【教室】

- ・ほうきと雑巾がちゃんと動きを決めて進めば、ごみの残しなくスムーズにできるんじゃない?
- ・床の目に合わせて動いてみよう

【靴箱】

- ・砂が多すぎて毎回取りきれない
- ・靴箱と床で役割を分担してみたら時間内にきれいになるんじゃないかな

【階段】

- ・隅のごみが取りきれていないからそこをなんとかしたい
- ・T字のほうきだと隅が掃きにくいからほうきを変えてみよう

【トイレ】

- ・ブラックライトで見てみたら水が飛んだよごれが床にあったね
- ・これまで床は掃き掃除だけだったけど、拭き掃除も必要みたい

④ <自分たちの清掃をレベルアップさせよう(実践→共有)>

- ・動きを統一して床の目に合わせて掃除してみたらいつもより早くきれいになる気がする。でもまだごみが取りきれてはいないんだよね
- ・ほうきや雑巾を正しく使っているのかな?使い方で変わるかも
- ・階段は狭いから小さいほうきを使ってみたらうまくいった
- ・時間を短くするために分担したけど逆にごみが残ってしまった
- ・掃除の順番は高い所から低い所の順番でやるとごみが残りにくいよ
- ・ほうきと乾拭きだけだと、取りきれなかったな
- ・水拭きをしたら水の跡が残ってしまったんだけどいい方法はないかな

⑤(本時) <よりレベルアップする次の計画を立てよう(計画)>

【教室】

- ・動きを統一することと床の目に合わせることは続けたい
- ・ほうきやぞうきんを正しく使えばもっときれいになるはずだ

【靴箱】

- ・高い所から低い所の順番で掃除をするのがいいみたいだから靴箱から床の順番にしてみよう
- ・床の目も意識してみようかな

【階段】

- ・道具はそのままでいいかな
- ・細かい埃は取りきれていないから雑巾は乾拭きだけでなく水拭きを使うとよさそうだな

【トイレ】

- ・水拭きの後に乾拭きをしたら跡が残らないって言ってたね
- ・水の跡が残らない雑巾の絞り方もあるみたいだよ。やってみたいな

⑥ <自分たちの清掃をよりレベルアップさせよう(実践→共有)>

- ・ほうきの先を意識して掃くことで、隙間のごみまでしっかりとれるぞ
- ・靴箱をやってから床を掃除したからかな。靴箱も左右から分担してやっていくことで効率よくなったね
- ・1回目の後に気になった細かい埃がなくなっていた
- ・水拭きにしたから取りきれていた細かい埃まで取ることができた
- ・湿り拭きをしたら、水拭きのよさを残したまま跡が残らなかつたね

⑦ <レベルアップした方法をまとめて実践を振り返ろう>

- ・細かい砂や埃がある所は、床の目に合わせて動くことと、ほうきをしっかりと立てて使うことを意識したらよりきれいになったよ
- ・高い所から低い所に向けて掃除するとごみが残らないんだよ
- ・ライトで見えた水垢みたいなよごれも水拭きで拭くときれいになった。水の跡が残らない雑巾の濡らし方もあるよ

- ・快適に過ごすために掃除が重要なんだって改めて感じた
- ・よごれや場所によって清掃の仕方を変えるのが大切なんだな
- ・家でもよごれに合った清掃の仕方も考えてやってみたい
- ・意味を考えてやることで、掃除にやりがいを感じられた
- ・これから気持ちよく過ごすために「掃除の時間」を大事にしたいな

- 見えないよごれにも目を向けられるよう、ブラックライトを活用する。
- その場所にどんなよごれが多いのかを確認できるよう、清掃した際のごみを残しておく。

- 自分の清掃場所に合った方法を考えられるよう、計画を立てる際にも実際にその場所へ行ったり道具に触ったりしてよいことを伝える。

- 普段の生活に還すことのできるものとなるよう、学校や家庭にある道具で何ができるかを考えよう声をかける。

- 実践の際も見えないよごれまで意識が向かれるよう、ブラックライトを活用する。

- 2回目の自分たちの実践に他の場所の清掃をいかせるよう、それぞれの場所が行った方法とその結果を全員に見えるように提示する。

- 2回目の計画を考える際、現段階である程度の満足感を得ているグループには、他の場所の実践に目を向け「より自分の場所をきれいに」という意識で考えられるよう声をかける。

- 道具を正しく使うことでよりきれいになることに気づけるよう、それぞれの道具の使い方に目を向けているグループがあれば紹介する。

- 実践をまとめ際には、他の場所の実践も同じ視点で知ることができるよう「道具の正しい使い方」「場所や汚れにあった用具や方法」「掃除の手順」という項目を設定する。

- 振り返りの際には、これまでとこれからを踏まえて振り返るよう声をかける。また家庭での清掃も視点として挙げる。